

様式3

佐賀県立佐賀城本丸歴史館協議会議事録

- 1 開催した会議の名称 令和6年度佐賀県立佐賀城本丸歴史館協議会
- 2 開催日時 令和7年3月17日(月) 15時から17時まで
- 3 開催場所 佐賀城本丸歴史館 会議室
- 4 出席者 委員：高野委員、粟屋委員、塩田委員、富永委員、
長谷川委員、中尾委員、谷委員、古賀委員
佐賀城本丸ボランティア：高祖会長
文化課：南雲課長、安永副課長
事務局：七田館長、白濱統括副館長、古川副館長、
武谷企画学芸課長、副島企画担当係長、
藤井学芸担当係長、谷頭主事
- 5 議題 (1) 令和6年度事業実施状況について
(2) 令和7年度の事業計画について
(3) 令和7年度予算について
(4) その他
- 6 会議録
会議の冒頭、七田館長から挨拶があった後、議事に入った。
(事務局より配布資料に基づき説明)

(委員)

予算について、令和7年度の要求予算の採択の状況は。また、予算配分の基準は何か。

(事務局)

要求した事業の予算は確保できた。

基本的には、予算の枠の中で事業費を調整し要求している。ただし、本丸御殿の調査のように、予算の枠とは別に、県の主要事業として予算配分されることもある。

(委員)

本丸歴史館は入館無料だが事業費確保に支障はないのか。

(事務局)

県の方針として入館無料となっているが、例えば募金は施設の維持管理に、ミュージアムショップの売り上げはグッズ製作の財源など事業費に充当しており、収入の確保は必要と考えている。

(委員)

令和7年度の予算が増えている理由は何か。

(事務局)

本丸御殿の調査や施設整備など新規事業の計画があるため、その分の予算が増加している。

(委員)

展示について、江藤展では資料も充実しており、歴史に詳しくない方も楽しむことができる映像もあり、見応えがある展覧会だったと感じた。単発で終わらせるにはもったいないと思っていたため、常設展示として「江藤新平コーナー」が設置されたのはよかった。

今後の「江藤新平コーナー」の活用について教えてほしい。現物資料の公開などの計画はあるのか。

(事務局)

当館は、木造復元建物であり、常設展の展示環境から実物資料の展示は困難な状況。そのため、「江藤新平コーナー」でもレプリカを展示している。

(委員)

広報について、江藤新平関係でグッズをつくらないのか。

おみやげなど持って帰ることができるもので、アピールをして良いと思う。

(事務局)

検討する。

(委員)

入館者数について、「入館者数」は施設に入った人数、「観覧者数」は原物資料を展示している特別展示室に入った人数という認識で間違いないか。

また、令和6年度は観覧者数が入館者数の大体半分であるが、通常もこのような割合なのか。

(事務局)

入館者数、観覧者数の認識は間違いない。

また、割合については、通常のテーマ展の観覧率は約4割であるが、江藤新平展では5割近くでありの観覧者の割合数が高かった。

(委員)

常設展示について、開館当初からある展示の古さに目が行く。整備してはどうか。

(事務局)

検討する。

(委員)

出前講座について、依頼があれば実施するのか。また、情報を公開しているのは館のホームページ上だけなのか。

(事務局)

依頼を受けて実施している。また、当館ホームページ上のみで情報を公開しているが、ホームページを見ていない方からも出前講座について相談がくる。

(委員)

出前講座について、一団体が複数回の依頼を出しても対応してもらえるのか。

(事務局)

ホームページで案内していないテーマの講演を希望される場合は、準備のために時間が必要である。業務負担なども考慮し、対応できる回数は調整次第である。

(委員)

佐賀の歴史文化に関する研究会について、事業は始まっているのか。

(事務局)

事業は始まっている。年度途中から、佐賀復権推進チームという県文化課内の組織に事業を移管した。

(委員)

江藤新平復権事業について、(映像で)多くの方に広く知ってもらうのも大切だが、江藤の再評価のためには、学芸員や識者が研究し業績を評価することが重要だと考える。

(事務局)

同様の問題意識をもっている。現役世代の研究者だけでなく次世代の研究者を育てることも課題であり、広報活動だけでなく、研究も重視して取り組んでいく。

(委員)

施設貸出について、行政事業や歴史文化系の行事で使われていることが多いが、令和6年度では珍しく業界団体への貸し出しがある。これまでも業界団体行事へ貸し出したことがあるのか。またどのように使用されたのか。

(事務局)

業界団体行事への貸出は殆どにない。相談はあるが、原則として飲食を禁止など使い勝手がハードルとなり断念される場合が多い。

(委員)

業界団体の行事というと、ホテルの会議室などを使用することが主である。今まで機会がなかった方が来館する契機となるため、このような使用がもっと増えればいいと思う。条件

緩和などしてさらに使いやすくするといいと考える。

(委員)

一般のお客様から、施設貸出をしていることが原因で、十分に見学できなかったと言われたことはあるか。

(事務局)

ある。復元した本丸御殿の見せ方と、施設の活用方法について、バランスを考えながら対応する必要がある。

(委員)

発掘調査について、本丸御殿に庭園空間があったとの説明があったが、文字記録は残っているのか。

(事務局)

文字記録は確認できていない。しかし、幕末明治期のものと考えられている古写真などの資料から大名庭園があったと考えており、発掘調査では遺構が見つかる可能性が高い。

(委員)

ボランティアについて、登録人数が 66 名というのは例年通りなのか。

(事務局)

コロナ禍以降、ゆるやかに減員している。今後お客様が増加すれば現体制で対応するのは難しく、募集を呼び掛けている。

(委員)

ボランティアガイドの案内により郷土への愛着が育まれることもある。頑張ってもらいたい。